

寄贈図書リスト

すばる望遠鏡の宇宙, 海部宣男, 宮下暁彦写真, 新書判, 1,000円+税, 200頁, 岩波書店

アインシュタイン よじれた宇宙の遺産, ミチオ・カク著, 榎原 凜訳, 四六判, 2,400円+税, 208頁, WAVE 出版

書評をご執筆の方には, 上記の図書を差し上げます。ご希望の方は toukou@geppou.asj.or.jp まで。

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター教授

1. 2006年6月 (第99巻6号)
2. 土居 守 (東京大学大学院理学系研究科助教授)
3. 2007年7月16日

研究助成

山田科学振興財団 2008 年度研究援助候補推薦

山田科学振興財団より本会宛に, 下記内容の 2008 年度研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。推薦書は学会推薦となっておりますので 2008 年 2 月末日 (金) 必着までに日本天文学会宛に提出して下さい。

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的研究 (実用指向研究は対象外)

◎研究援助趣旨

- 1) 萌芽的・独創的研究
- 2) 新規研究グループで実施される研究
- 3) 学際性, 国際性の観点からみて優れた研究
- 3) 国際協力研究
2. 援助の金額: 1 件当たり 100~500 万円の援助を 15 件程度。(援助金の使用期間は贈呈した年度及びその次の年度の計 2 年間とします。)
3. 推薦件数: 1 学会ごとに 2 件以内。

★2008 年度研究援助候補推薦要項・推薦書用紙は全て下記ホームページ上に添付されております。

山田科学振興財団 <http://www.yamadazaidan.jp/>

研究会・集案案内

2007 年 3 機関

(国立天文台・東大理センター・総研大)

三鷹地区特別公開

メインテーマ: 「地上をはなれて星を見る」

日 時: 2007 年 10 月 27 日 (土) 10:00~19:00 (入場は 18:30 まで)

場 所: 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台三鷹キャンパス, 東京大学天文学教育研究センター

主 催: 自然科学研究機構国立天文台, 東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター, 総合研究大学院大学物理科学研究科天文学専攻

後 援: (社)日本天文学会, (財)天文学振興財団

協 力: 東大生協天文台支所, 大沢住民協議会

内 容: 主な観測・実験施設の公開, 研究紹介・展示, 講演会, 天文相談コーナー, スタンプラリー, 天体観望会 (晴天時のみ) など

○講演会 13:00~15:30 (途中休憩あり)

会 場: 解析研究棟大セミナー室

1. 太陽観測衛星「ひので」が明かす太陽の不思議
常田佐久 (国立天文台ひので科学プロジェクト・教授)
2. X 線天文衛星「すざく」でみる宇宙
大橋隆哉 (首都大学東京大学院理工学研究科物理学専攻・教授)

※講演会開催中, 託児コーナーを設ける予定です (事

前申込制)

- ※交通：●JR 中央線・武蔵境駅南口より小田急バス
狛江駅または狛江営業所行き
●京王線・調布駅北口より小田急バス武蔵境
駅南口行きまたは京王バス武蔵小金井駅北
口行きいずれも「天文台前」バス停車
(約 15 分)

※駐車場はございませんので、公共交通機関または自
転車をご利用下さい。

その他：入場無料

お問い合わせ先：

自然科学研究機構国立天文台事務部総務課

Tel: 0422-34-3600 (代表) Fax: 0422-34-3690

ホームページ <http://www.nao.ac.jp/>

京都大学花山天文台一般公開のお知らせ

京都大学花山天文台では、来たる 10 月 20 日に一般
公開を行います。施設の公開・展示陳列と天体観望会
を行い、また、ネットワークを経由して飛騨天文台で
観測された天体画像をリアルタイムで上映します。花
山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研
究を、わかりやすく説明しますので、お気軽にお申し
込み下さい。(申込締切：9 月 30 日(日))

〈一般公開〉

日 時：2007 年 10 月 20 日(土) 13:00~20:30

場 所：京都市山科区北花山大峰町

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台

公開施設と内容：花山天文台の主要な観測施設、研究
施設などの公開および展示陳列、望遠鏡による天体
観望、講演会、太陽黒点スケッチや工作などの各種
体験コーナー。

天体観望詳細：

〈昼〉 ザートリウス 18 cm 屈折望遠鏡および 70 cm
シーロスタット分光望遠鏡による太陽像と分光
スペクトル観望、太陽黒点スケッチの実習、4
次元デジタル宇宙シアターで宇宙の姿を立体
視、飛騨天文台で観測された太陽像のネット
ワークによるリアルタイム上映。

〈夜〉 45 cm 屈折望遠鏡(定員 100 名/抽選)や小望遠
鏡による天体観望(月)。

交通機関：京都市営地下鉄東西線蹴上駅より徒歩 30
分、蹴上駅～花山天文台間はシャトルバス(300 円
(往復))を運行します。または、京阪三条駅よりタ
クシー約 10 分(約 1,300 円)。自家用車でもお越し
頂けます。

申し込み方法：往復ハガキまたは電子メール(e-mail)
での事前申し込みが必要です。

締 切：9 月 30 日必着

住所、氏名、電話連絡先、e-mail アドレス、45
cm 屈折望遠鏡による観望の希望の有無を書い
て申し込んで下さい。(団体の場合は代表者
の住所、氏名、連絡先のほかに、見学者の総
数と各人の氏名も洩れなく記入して下さい。)

定 員：先着 500 名(45 cm 屈折望遠鏡による観望は
抽選 100 名)抽選結果は 10 月上旬に返信し
ます

宛 先：〒607-8471 京都市山科区北花山大峰町
京都大学花山天文台

Tel: 075-581-1461, 075-581-1235

Fax: 075-593-9617

e-mail: hosizora@kwasan.kyoto-u.ac.jp

花山天文台のホームページ

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp>

〈主催〉 京都大学大学院理学研究科附属天文台、NPO
花山星空ネットワーク

〈後援〉 京都府教育委員会、京都市教育委員会

そ の 他

第 15 回衛星設計コンテスト最終審査会

主 催：日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報
通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、宇
宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本
天文学会、日本宇宙フォーラム

後 援：文部科学省、総務省

本コンテストは、全国の大学院、大学及び高等専門
学校の学生及び高等学校の生徒を対象としており、宇
宙に係わる基礎・応用研究を積極化する機会を提供す
ることにより、併せて我が国の宇宙開発のすそ野の拡
大に寄与しようとするものです。また、平成 17 年より
高校生を対象とした「ジュニアの部」を新設し、参加
の機会を拡大しました。学生の自由な発想による小型
衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションのコンセプ
ト、アイデア、設計構想等を全国から募集し、宇宙関
連学会、研究機関、企業等の専門家からなる審査委員
が応募作品に対し、予め厳正な 1 次審査を書面により
行い、優秀な作品を最終審査会に提案するテーマとし
て選出致しました。

当日は 1 次審査で選ばれた作品について各チームに
演壇で発表していただき、その中から最も優秀な作品
を選出します。本審査会は公開発表形式となっており、
入場は無料です。皆さんのご来場をお待ちしてい
ます。

日時：平成19年10月28日（日）10:30～17:30

会場：一橋記念講堂

東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター内

〈交通〉 東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄三田線、都営地下鉄新宿線・神保町駅下車A8出口から徒歩3分、東京メトロ東西線・竹橋駅下車1B出口から徒歩4分

※駐車場の用意はございませんので、お車での来場はご遠慮下さい。

問い合わせ先：財団法人日本宇宙フォーラム 衛星設計コンテスト事務局 武石/渡辺

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階

Tel: 03-5200-1301 Fax: 03-5200-1420

e-mail: satcon15@jsforum.or.jp

URL: <http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>

衛星設計コンテストへ応募しましょう！

皆様は、衛星設計コンテストのことをまだご存じでない方が多いと思います。衛星設計コンテストというのは、全国の大学院、大学及び高等専門学校等の学生ならびに高等学校の生徒を対象に衛星の「設計」または「アイデア」を競うもので、毎年行われています。財団法人日本宇宙フォーラム（事務局）、宇宙航空研究開発機構（JAXA）をはじめ、日本航空宇宙学会等の工学系学会と地球電磁気・地球惑星圏学会といった理学系学会が主催でコンテストが運営されていますが、そこに2007年度から新たに日本天文学会も主催に加わることとなりました。このコンテストは、1992年に国際宇宙年を記念して始まったもので、今年が15回目となります。宇宙に係わる基礎・応用研究を積極化する機会の提供や日本の宇宙開発のすそ野の拡大への寄与がコンテストの目的です。学生の皆さんの自由な発想による小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想などが募集され、審査の上、優秀な作品を寄せたグループ又は個人が表彰されます。具体的には、「設計の部」「アイデアの部」「ジュニア部」があり、「設計の部」は、設計条件を満たし、応募者の設定したミッションを実現する衛星システムの設計を競うものです。「アイデアの部」は、応募者の提案する宇宙ミッションの独創性、有用性を競うものです。「ジュニア部」は高校生を対象にしたもので、自由な発想で宇宙に活用できそうなアイデアに富んだ衛星の提案を募集するものです。なお応募の詳細は、衛星設計コンテストのホームページ

(<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>)をご覧下さい。応募は例年、4月から5月にかけて行われ、書類審査を経て、10月下旬に最終審査（発表審査）が行われます。この最終審査は公開ですので、どなたでも自由に参加できます。今年の最終審査会に関する詳細は、審査会の案内のページもご覧下さい。

学生の皆さんは、コンテストへ参加してみませんか。宇宙ミッションのアイデアの応募でもいいですし、工学系の学生の方達とも協力して衛星の設計まで手がけてみるのもおもしろいでしょう。日本の最先端衛星を支えておられる専門家の方々に自分たちの衛星の設計やアイデアを見ていただけるまたとないチャンスでもあります。設計大賞、アイデア大賞をはじめ各学会の賞等も設けられていますので、是非挑戦してみてください。入賞作品が実際に打ち上げられた例もあります。

日本天文学会では、コンテストの実行委員会、企画委員会、審査委員会に学会からメンバーを提供し、コンテストの運営に協力をしています。なにかご要望等がありましたら、実行委員または企画委員にお寄せ下さい。今後とも衛星設計コンテストへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

衛星設計コンテスト実行委員 土佐 誠、
郷田直輝（文責）
企画委員 片岡 淳
審査委員 常田佐久

第13回日本女性科学者の会奨励賞募集

対象者：自然科学分野で研究業績をあげ、その将来性を期待できる者であり、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員（応募時入会可）。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮ください。

奨励賞：賞状および奨励金20万円（年1～3件）。

本会総会（例年6月）において贈呈。

応募書類請求期間：2007年10月1日（月）～10月31日（水）

事務局へご請求される場合は葉書をお願いします。

書式はホームページ（<http://www.sjws.jp/>）からもダウンロードできます。

応募期間：2007年11月1日（木）～11月15日（木）
必着

決定時期：2008年3月末（郵便にて本人宛通知）

応募書類請求先/送付先：

〒305-8566 茨城県つくば市東1-1-1 中央第6
産業技術総合研究所生物機能工学研究部門

日本女性科学者の会賞連絡事務局 佐藤 緑苑
Fax: 029-861-6177
e-mail: award13-sjws@m.aist.go.jp

会務案内

【理事会議事録】

開催日時: 2007年6月30日(土) 13:00~16:45

開催場所: JAXA 東京事務所会議室

出席者: 土佐, 柴橋, 國枝, 花岡, 高田, 北本, 田村,
嶋作, 福田, 高羽, 渡部, 堂谷, 比田井, 中本
以上 14 名

他に東條事務長が出席した。

表決状提出者: 和田 以上 1 名

議事に先立って、5月22日に急逝された学会教育委員会委員であった森淳氏に黙祷をささげた。また、署名人として花岡、高田両庶務理事を選出した。

報告

1. 前回議事録確認

高田庶務理事より資料1に基づいて前回理事会の議事録について説明がありました承された。

2. 秋季年会, その後の年会について

岐阜で行われる2007年度秋季年会の準備状況について高羽開催地理事より配布資料に基づいて説明があった。宿泊施設については旅行社経由で既に400部屋ほどを確保し、公開講演会については「技術開発が拓く宇宙の扉」というテーマで家, 中川両氏による講演が予定されていることが報告された。特に大きな問題はなく順調に準備が進んでいる。

今後の年会開催地について配付資料に基づき高田庶務理事より説明があった。

2009年春の大阪府立大学までは前回までに了承されていたが、2009年秋の山口大学及び2010年の秋の広島大学での開催について当事者の了承がとれ、既に年会開催地準備マニュアルを送付し、準備が着々と進んでいることが報告された。また、2010年春の年会については京都大学に開催を打診中であることもあわせて報告された。

西日本に開催が集中しているので少し分散を考慮の必要性があるという指摘がなされ、今後、特に2010年春等についてさらなる調整を進めることとなった。

公開講演会について、2007年春の年会における公開講演会が大変盛況であったことが花岡庶務理事より報告され、今後の公開講演会の成功のためにも、

集客等のノウハウを蓄積し、今後の年会運営に生かすべきであると指摘があり、年会開催地マニュアル等に反映させることを検討することとした。講演会は科研費からの補助を受けることもあるので、これを最大限生かせるような努力をすべきであるとの指摘もあった。

また、開催地となったあとで、開催地理事になるまでに時間がかかることがあり、準備段階の会場確保などの段階で、天文学会としての役名がないために苦労した旨、比田井開催地理事から指摘があった。理事の任期をずらすなどは手続き上問題が多いため、「年会準備委員長」などという役名をつけることで乗り切れないかを今後検討していくこととなった。

3. その他

(1) 早川基金の運用と内規改定について

北本会計理事より、栗木早川基金選考委員長から提出された配布資料に基づき、早川基金の内規の改訂について報告があった。今回の理事会では原案を報告し、問題点などの洗い出しを行い、次の理事会において議論を行ってから内規の改訂を評議員会に提案したい旨、あわせて報告された。今回の変更は、現在の内規で規定されている旅費の支給対象の制限を緩和すること(滞在費等にも拠出できるようにする)を主な目的としていることに関しては基本的に問題はないとの意見が複数理事より出されたが、運用上実際に交通費以外を支給するかどうかについては、支給額の査定の方法などの技術的な問題があるのではとの指摘がなされた。応募者にわかりやすい文面で公募文書を作成する必要があり、特に支給額の上限などは必ず明記されるべきであるとの意見が出された。

北本会計理事と栗木委員長が相談して、今回出された意見等も反映させながら今後の対策を決めることとなった。

(2) 学術会議の「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」報告

花岡庶務理事より、配付資料に基づいて報告があった。新しい太陽系像についての説明に向け作成された資料(第1, 第2報告)が回覧された。

また、新しい太陽系の姿を伝えるためのポスター及びパンフレットの作成について報告された。ポスターは学校への配布を、パンフレットは主に科学館などへの配布を考えて作成する予定であるが、予算的な裏づけが今のところないので、関係各団体から少しずつ集めている段階で

あるとのこと。天文学会にも支出への協力の要請があり、それについては了承された。また、作成したポスターやパンフレットの活用方法を学会としても考えるべきであろうとの意見が出された。

(3) 博物館展示会企画について

國枝副理事長より資料 8 及び追加配布資料に基づいて説明がなされた。天文学会創立 100 周年のイベントの 1 つとして、国立科学博物館と共同で日本の天文学の歴史等に関する展示会を行うことを考えていたが、既に 2008 年度内での開催は困難との判断から、世界天文年との合同の企画として 2009 年に国立科学博物館において展示後、各博物館を巡回する展示会が企画されていることが報告された。国立科学博物館においては 300 平方メートル程度の展示会場を確保する見込み。全体で 1500 万円程度の費用が予想されるが、一部については科学博物館が負担することが見込めるので、残りを学会側が様々な方法を用いて工面することを考えていることが報告された。

展示物の候補の中には歴史的なものも多数あり、展示自体は興味深いものとなりそうであるが、保険契約なども必要であるとの見通しである。現状では 2009 年第 2 四半期が想定されている。巡回先については現在議論中で 5 つくらいが限度であろうとの見通し。

世界天文年との絡みもあるので、募金等の集め方については連携をしっかりと取る必要があること、また、しっかりした展示場所ですっきりとした展示を行うことが学会の趣旨にあうのではないかとの意見が出された。この出資後はしばらく大きな事業はできないであろうとの予算的見通しもあわせて考える必要があることも指摘があった。

今後、実行委員会を設け、具体的な展示の詳細を決める必要があるとの意見が多くの理事から出され、至急対応することで了承された。

(4) 教育委員会から報告

渡部教育理事より、世界天文年についての最近の動きについて口頭で報告があった。世界天文年日本委員会のキックオフミーティングが 5 月 29 日行われ、スケジュールについての共通認識を持つことができたこと、また、個別の企画の調整、特に募金等の調整が必要で、募金委員会を設けることで対応を考えている旨、報告があった。企画委員会を作成し、調整を行う。その下に各 WG を立ち上げる予定とのこと。

(5) 学会 100 周年記念切手に関する打ち合わせ

北本会計理事より、配付資料に基づいて郵政公

社と行われた打ち合わせについて報告がなされた。80 円切手 10 枚（または 12 枚）で 1 セットとなるもので、現在デザインのアイデアが欲しいので、良い案があれば北本理事まで送って欲しい旨要請があった。

(6) 指定管理者制度に関して

花岡庶務理事より天文教育施設に対する指定管理者制度の導入に関して、天文教育普及研究会の松村会長から提出された資料に基づき説明がなされた。現在、公共施設の管理運営が見直され、博物館や科学館、プラネタリウムなどの天文教育施設においても指定管理者制度が導入され始めているが、問題点として長期的展望に立った活動が難しいなどがあげられており、その導入に反対する声明を天文学会を含んだ形で進めたいという希望を持っている。天文教育普及研究会での議論も進んでいるので、今後、この問題について学会側担当を決め取り組んでいけるようにできないかという要請であった。学会の教育委員会においてこの問題を担当していた森氏の急逝により現在活動が停滞中であり、至急後任者を決めて活動を再開していく方向で検討を始めることとなった。補足として、渡部教育理事より秋の学会教育フォーラムにおいて法人化による功罪と指定管理者制度について議論する場が設けられることもあわせて報告された。

議 題

1. 新入会員の承認

高田庶務理事より資料 4 に基づいて新入会員のリストが示され、了承された。また、退会者等の報告がなされた。

2. 2008 年度事業計画について

高田庶務理事より、資料 5 に基づいて 2008 年度の事業計画案は示された。基本的な部分は例年どおりの活動であるが、学会 100 周年記念の様々なイベントや PASJ の半額キャンペーンなどが特記事項として示された。衛星設計コンテストへの共催による参加について書くべきであるとの指摘があり、その点を修正するということで了承された。

3. 2008 年度収支予算案について

田村会計理事より資料 6 に基づいて 2008 年度収支予算案が示された。PASJ 半額キャンペーンは 2008 年度に投稿をしたものについて適用されるので 2009 年度にも半分程度影響が残ることや出版費に関する科研費による補助の減額などが特記事項として示された。

中本年会理事より、年会予算に絡んでジュニアセッションの世話人である吉川氏より、来年度でジュニアセッションが10回目を迎えるので、初回から10回目の予稿集の合冊本を作ることに可能性を打診されていることについて、配付資料に基づいて説明があった。その意義について議論され、CDROMでの配布だけでも良い、CDの数も多すぎるとの意見が出された。ジュニアセッションの内容をWEBで公開するのが先ではないかとの意見もあったので、田村会計理事より、今後の方針を中本理事から吉川氏に連絡してもらい、状況に応じて多少の金額のサポートは考えることとするとの回答があった。

4. 秋季総会議題

秋季総会における議題について、高田庶務理事より資料7に基づいて説明がなされた。内容については特に質疑もなく承認された。なお、本総会中に学会ロゴに関する表彰式を行うこともあわせて確認された。

5. 学会ロゴについて

北本会計理事より配付資料に基づいて学会ロゴコンテストの審査結果について報告が行われた。2回に渡る審査委員会の結果、最優秀賞1つと優秀賞2つが選ばれた。最優秀賞の作品については、今後ロゴとして使っていく上で商標登録を行うことを考えているので、商標調査を特許事務所に依頼して行ったこともあわせて報告された。若干の問題がある可能性があるが、このまま登録を申請し、特許庁の回答を待つ方針で考えているとのこと。また、優秀賞作品の1つが学会100周年に係るイベント等で使用したい旨、あわせて報告された。使用させて頂くのなら、期間限定で使わせてもらいたい旨の契約をデザインをされた方と結ぶべきであるとの意見が出され、その方向で検討することとなった。

6. その他

(1) 衛星設計コンテストについて

高田庶務理事より、衛星設計コンテストの最終審査会場において学会の宣伝をする展示を行ってはどうかと、担当の1人の郷田氏より依頼されている旨報告があり、展示を行うことについては承認された。今後も何年も続いて参加をするコンテストであるので、関連する事柄を専門に扱う組織が必要であろうとの認識が示された。これについて議論がなされ、理事長が参加している企画でもあることから、委員会を新設することが良いであろうとの合意に達した。来年度から発足の方向で今後準備を急ぐことで承認された。

(2) 次回について

次回は秋季年会中に開催。次々回については後日調整するが、1月中旬迄に行う必要がある。

2007年8月2日

議長 土佐 誠 ㊤
署名人 花岡庸一郎 ㊤
署名人 高田 唯史 ㊤

【評議員会議事録】

開催日時：2007年7月7日（土）13時～16時15分

開催場所：東京八重洲ホール 902号会議室

出席者：安東、家、梅村、大橋、谷口、観山、山本、井上、岡村、海部、郷田、中川、永田、宮川
以上14名

有効表決状提出者：池内、佐藤、柴田、須藤、渡部
以上5名

他に理事会から土佐理事長、國枝副理事長、花岡、高田、北本、田村理事及び東條事務長が出席した。議事に先立ち、議長に中川氏、署名人に井上、郷田両氏を選出した。

報告

1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回の議事録の確認が行われ、了承された。

2. 秋季年会、その他の年会について

高田庶務理事より、2007年度秋季年会の準備状況、及び2008年以降の年会開催地について、資料2に基づいて説明が行われた。

岐阜で開催予定の2007年秋季年会については準備は順調に進んでいるとの報告があった。また、2009年秋については山口大学、2010年秋については広島大学が受け入れを表明し、準備を進めている旨、報告された。

2010年春については現在京都大学に受け入れを打診中であるが、5回連続で西日本に開催地が偏っているという意見もあり、今後調整を更に進めるとの方針が示された。

3. その他

(1) 早川基金

北本会計理事より、資料3に基づいて早川基金の援助支給対象を現在の渡航費に限ったものから、より広い対象に緩和する（具体的には滞在費、参加登録費など）目的で内規の変更を現在考案中であり、示された現状の案についての議論をお願いしたいこと、次回の理事会、評議員会を経て決

定する方針を承認してもらいたい旨報告があった。日当計算や支給査定の方法などの技術的な面については、応募者にわかりやすいように応募案内には明記すべきであるとの意見が出された。

また、現状行われている半額支給について議論があり、複数の委員より半額支給には問題があるので、今後の方針を早川基金選考委員会でよく議論して欲しい旨、意見があったことを伝えることが了承された。科研費との合算で全費用をまかなうようなことは現在まだできないこと、当初の内規改訂の目的は使用金額を増やすことはないが、対象費目は増やしたいということであった事が確認された。内規の改定としては評議員会としては賛成であり、今後の運用については早川基金選考委員会からの具体的なフィードバックを求めることで了承された。

(2) 学術会議「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」報告

学術会議「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」での議論、検討結果について小委員会委員長でもある海部氏より口頭で報告があった。2006年11月から活動を始めて、太陽系天体の概念整理と、その日本語名称についての第1報告と教育機関及び一般向け説明資料を含む第2報告を既に発表したこと、IAUに対して日本での検討結果を伝達する目的の、第3報告に向けて現在作業中であることなどが報告された。また、補足として花岡庶務理事より、今回の検討結果をわかりやすくまとめたポスター（各学校配布予定）とパンフレット（科学館などを通じて広く一般に配布）を作成中であり、学会からの援助については理事会で了承を得たこと、天文学会として上記2つについて学会としての活用方法について意見があれば出してほしい旨報告があった。

なお、報告書は学術会議のホームページからダウンロード可能であり、関係者に周知してほしい旨、あわせて要請があった。

(3) 百周年記念及び世界天文年展示について

國枝副理事長より、資料4に基づいて学会100周年記念及び世界天文年に関する展示企画について報告が行われた。当初は、100周年記念ということで2008年に展示を企画していたが、共同で開催する国立科学博物館との議論で2008年の開催は困難であることが判明したため、世界天文年にも絡めて2009年の第二四半期に開催予定で現在話を進めていること、費用が全体で1,500万円程度かかるので、国立科学博物館と共同で資金の

調達を行っている点などが報告された。

実施に当たって、学会側の実施体制の確立が必要であろうとの意見が出され、了承された。また、補足として海部氏より世界天文年日本委員会を立ち上げ中で、アジアでの取り組みについて強化の方向性で活動を考えている点、資金調達を行うための募金委員会を設置しようとしている点などが報告された。特に、資金援助の申し込みを複数の天文企画から同じ団体に申請することがないように、調整して資金調達に当たるべきであるとの認識が示された。

展示の内容についても、研究者の思考に偏らず、世界天文年のWGに参加している公開天文台、博物館等のスタッフのアイデアは豊富なので、合同チームを結成の方向で進めるべきであるとの意見が出され了承された。

(4) 学会ロゴについて

北本会計理事より資料5に基づいて、学会ロゴの審査結果について報告があった。最優秀賞1作品と優秀賞2作品を2回にわたる審査委員会において決定し、最優秀賞の作品について白黒色での商標登録を考えていることが報告された。例として示された青色で描かれたものが国立天文台のロゴマーク似ているとの指摘があり、議論の結果、色使いには少し考慮をして頂くということで了承した。また、優秀賞作品のうち的一件については学会百周年関連のイベント等での使用を考えている旨も報告され、使用許可を含めた契約についてきちんと話を進めるべきであるとのコメントがあった。なお、上記3作品の作者については、秋季年会中の総会に招待の予定であることも報告された。

(5) 記念切手発行について

北本会計理事より資料6に基づいて、学会100周年を記念して発行される記念切手について、郵政公社と行われた打ち合わせの報告がなされた。80円切手10枚（または12枚）で1セットとなるもので、現在デザインのアイデアを募集中である旨、報告された。

切手の販売等については今後、関連団体等とも相談しながら決めていく必要があるとの認識が示された。

(6) 天文教育施設に対する指定管理者制度導入に関して

花岡庶務理事より、資料7に基づいて、天文教育施設に対する指定管理者制度導入に関して天文教育普及研究会の松村会長から、その導入に反対

する共同声明に天文学会も参加して欲しい旨の呼びかけが来ていることが報告された。施設の運営を民間に任せて効率をあげようという流れであり、博物館、科学館、プラネタリウムなどへの導入に対して危機感が持たれているものである。この件に対して学会側としても天文教育委員会において、人を選び対応を検討することが理事会で承認された事もあわせて報告された。この問題は天文だけではなく、物理等のより広い分野共通の問題であり、そのようなところとうまく連携しながら活動を広げるべきであるとの意見が多くの委員より出された。

議 題

1. 2008 年度事業計画書案

高田庶務理事より資料 8 に基づいて、2008 年度事業計画書案が示された。事業内容としては特に問題はないものの、100 周年記念事業をはじめ、複数の項目について書きぶりを直す必要性が意見として出され、それらを反映するという条件付きで承認された。

2. 2008 年収支予算書案

田村会計理事より資料 9 に基づいて、2008 年度収支予算書案が示された。来年度は学会 100 周年という特別な年なので、大きな赤字が出ることを念頭に入れておく必要がある旨報告され、承認された。

3. 秋季総会議題

高田庶務理事より資料 10 に基づいて、秋季総会における議題について説明が行われた。議題については特に問題なしとの判断で承認された。

4. その他

岡村氏より 100 周年記念出版に関して、現状の報告と今後の予定が口頭で報告された。現在のところ 4 巻 (1, 5, 8, 15 巻) が出版され、2 巻が印刷中、まもなく入稿が 2 巻という段階とのこと。第 1 巻については現在 3,400 部ほど販売されており、順調に売れているという感触であることも紹介された。今後、遅れているいくつかの巻について更なる督促を行い、来年 3 月までの全巻刊行を目指す。また、この記念出版の財源となった寄付をして頂いた後藤氏のご遺族の方へ出版された書籍をお贈りする件について質問が出され、至急に対応することで了承された。

海部氏より学術会議の動きについて口頭で報告が行われた。若手人材育成の議論については、特にポスト問題が話題の中心で、8 月に大阪で議論が行われること、それに向けて天文学会の協力が必要と

の要請があり、了承された。また、理科教育問題については、関係学会が集まって議論を続けている連合会に、天文学会が正式には入っていない点が問題であるとの指摘がなされ、また、議論の中で小学校で理科を教えられる専任の人が少ない等が問題点としてあがっていることが紹介された。天文教育委員会においても今後この点での活動を活発にし、具体的なアクションを起こすための議論を進めてもらいたい旨要請があり、了承された。

次回は秋季年会期間内、次々回は 2008 年 1 月 26 日 (土) に東京駅の近辺での開催を予定することで合意された。

2007 年 8 月 2 日

議 長 中川貴雄 ㊦

署名人 井上 一 ㊦

署名人 郷田直輝 ㊦

2007 年度日本天文学会 林 忠四郎賞受賞候補者および欧文研究報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

林 忠四郎賞選考委員会

標記の二つの賞について、受賞候補者(論文)の推薦をお願いします。締切は両賞とも 2007 年 11 月 20 日(火)(必着)です。下に述べるそれぞれの要領に従って記入した推薦書を、〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会宛に郵送して下さい(論文賞については e-mail も可)。なお、封筒には「林 忠四郎賞候補推薦書」または「欧文研究報告論文賞候補推薦書」と表記して下さい。とくに返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞とも本会年会の春季通常総会(2008 年 3 月 26 日、国立オリンピック記念青少年総合センター)にて行う予定です。

2007 年度(第 12 回)

林 忠四郎賞推薦要領

この賞は、林 忠四郎博士が 1995 年 11 月に第 11 回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等: 広い意味での天文学(天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む)における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授

与する。

授賞件数：原則として各年に1件。

賞状等：本賞として賞状、副賞として賞牌（メダル）および賞金（30万円）。

推薦書の形式：表題は「2007年度 林 忠四郎賞候補者推薦書」として下さい。前年度の被推薦者は、今年度再度推薦がない場合においても選考の対象とします。しかし、変更などがある場合は改めて推薦書を提出して下さい。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにして下さい。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：氏名（ふりがな）、生年月日、大学卒業年、現職および連絡先（電話、Fax、e-mail）
- 2) 授賞対象とする研究の表題
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、Fax、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨（300字以内）
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3編以内）

2007年度（第12回）

欧文研究報告論文賞推薦要領

この賞は、良い論文が Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林 忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等：原則として過去5年以内に Publications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者（共著の場合はすべての各共著者）に授与する。

授賞件数等：原則として1年に2件以内。賞状と副賞（次論文掲載一編無料）を授与する。

推薦書の形式：表題は「2007年度欧文研究報告論文賞候補推薦書」として下さい。A4サイズの用紙（e-mailでも可）に、次の順序で横書きにして下さい。

- 1) 候補論文について：論文題目、筆頭著者名、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 推薦理由（1,000字程度）
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職・連絡先（電話、Fax、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) e-mailで応募する場合は jimuj@asj.or.jp 宛に出席して、受領した返事を必ずもらって下さい。

2007年度研究奨励賞（第19回）

受賞候補者の推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を上げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。

受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近5年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（本年度は2007年1月1日）で35歳以下の者

であって、毎年3名以内を対象とし、賞状、賞牌（メダル）および賞金（10万円）を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。

- (1) 締切：2007年11月20日（火）必着
- (2) 提出書類：○候補者の氏名、現職、生年月日、○授賞対象とする研究の表題、○推薦者の氏名、現職、連絡先、○推薦理由（300字程度の要旨とA4で2～3枚程度本文）、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3編以内）

- (3) 提出先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内

日本天文学会研究奨励賞選考委員会

選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。

2007年度（第7回）

天文功労賞候補者推薦のお願い

天体発見賞選考委員会

この賞は、近年多岐にわたっている研究機関外での天文活動、例えば長年の天体観測や、突発的な現象の検出や的確な通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠外となっている天文観測・研究活動全般です。なお、天文普及に関しましては、この賞の対象とはしないこととしております。対象者は、「天文研究を主たる業務としない」個人および団体で、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、評議員会で決定します（天文月報2001年第12号632頁参照）。

天文学会の会員の方々からの候補者（団体）推薦を、

広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、功績名(1行程度)、功績の説明を書きいただき、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内/Fax: 0422-31-5487/jimu@asj.or.jp)にお送り下さい。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。

推薦は随時受け付けておりますが、今回の選考に確実に乗せるには、2007年12月31日までにお送りいただくようお願いいたします。なにとぞ多数のご推薦をよろしく願います。

早川基金応募者募集のお知らせ

日本天文学会では若手会員(35歳以下)を対象に、「早川幸男基金」から海外学術研究の援助を行っています。観測、研究発表、共同研究など広い範囲を対象としており、(それなりに審査で差はつく可能性はありますが、)現職によらず応募できます。

毎年4回(3, 6, 9, 12月の10日が締め切り)募集を行い、一年に総額200~300万円程度の渡航旅費の援助を行っています。締め切り月の翌月の1日から3ヵ月後の月末までが期間となっている渡航が対象ですが、前回の募集に間に合わず渡航した場合でも納得する事情説明がある場合には、その直後の回の締切に応募することができます。このような制度は他の学会ではあまり見られないものです。自分の研究そして日本の天文学の発展のために、ぜひ有効に利用してください。ふるってのご応募をお待ちしております。応募用紙の入手や詳細については、webページをご覧ください。日本天文学会のwebページ(<http://www.asj.or.jp/>)の「委員会：早川幸男基金」から行くことができます。

第17期評議員候補者選挙結果報告

2007年9月10日

任期2008年1月1日~2011年12月31日の評議員再選挙を、定款及び評議員選挙施行細則に従って、2007年8月10日~9月8日を投票期間として行いました。2007年9月10日に開票作業を行い、以下の結果を得ましたので報告いたします。

送付投票数: 1,694 (有権者数)

回答数: 196

有効投票: 1,224

無効票: 3

白票: 145

評議員候補者(敬称略)

*は現評議員

(任期: 2008.1.1~2011.12.31)

| | | |
|----|-------|-----|
| 当選 | 池内 了* | 49 |
| 当選 | 観山正見* | 41 |
| 当選 | 家 正則* | 37 |
| 当選 | 佐藤勝彦* | 33 |
| 当選 | 杉山 直 | 32 |
| 当選 | 谷口義明* | 30 |
| 当選 | 望月優子 | 30 |
| 当選 | 山田 亨 | 24 |
| 当選 | 坂田 悠 | 23 |
| 当選 | 筒井 亮 | 22 |
| | 大橋隆哉* | 22 |
| | 嶺重 慎 | 21 |
| | 梅村雅之* | 19 |
| | 牧島一夫 | 19 |
| | | 以下略 |

選挙管理委員会

委員長 有本信雄

2007年度秋季通常総会 第3号議案をお届けいたします

2007年9月10日

日本天文学会理事長 土佐 誠

【第3号議案】

日本天文学会第17期評議員候補者名簿

*は現評議員(敬称略)

任期: 2008.1.1~2011.12.31

| | |
|-------|-------|
| 家 正則* | 谷口義明* |
| 池内 了* | 筒井 亮 |
| 坂田 悠 | 観山正見* |
| 佐藤勝彦* | 望月優子 |
| 杉山 直 | 山田 亨 |

(社)日本天文学会へ2007年3月27日～6月26日までの間に入会された方、退会された方をお知らせいたします。

正会員入会 (51名)

| | | | |
|----------------------|-------------------|------------------------|-----------------------|
| 星野晶夫 | 首都大学東京・大学院理 (在学) | 児島和彦 | 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台 |
| 矢島秀伸 | 筑波大・大学院 (在学) | 木村俊介 | 東京大・大学院 (在学)/JAXA |
| 間明田好一 | 筑波大・大学院 (在学) | 中島美紀 | 東京工業大・大学院理 (在学) |
| 宮川直己 | 筑波大・大学院 (在学) | 稲見華恵 | 総研大 (在学)/JAXA |
| 鳥居和史 | 名古屋大・大学院理 (在学) | 海崎光宏 | 山形大・大学院 (在学) |
| 宮本祐介 | 筑波大・大学院 (在学) | 井上茂樹 | 東北大・大学院理 (在学) |
| 石井 峻 | 筑波大・大学院 (在学) | Finny Oktariani | 北海道大・大学院理 (在学) |
| 菅原泰晴 | 中央大・大学院理 (在学) | 川手朋子 | 京都大・大学院 (在学) |
| 吉野友崇 | 東京大・大学院 (在学)/JAXA | 福嶋勇介 | 大阪府立大・大学院 (在学) |
| 牛山孝夫 | 東海大・大学院 (在学) | 本木業人 | 北海道大・大学院理 (在学) |
| 長南 勉 | 東京大・大学院 (在学) | 井上裕文 | 東京大・大学院 (在学) |
| 齋藤浩二 | 東海大・連合大学院 (在学) | 齋藤 俊 | 東京大・大学院理 (在学) |
| 塚本裕介 | 東京大・大学院 (在学) | 田邊幸子 | 金沢大・大学院理 (在学) |
| 岡 光男 | 京都大・理/花山天文台 | 大石晋恵 | 北海道大・大学院理 (在学) |
| 田中孝明 | 東京大・大学院 (在学)/JAXA | 村主崇行 | 京都大・大学院理 (在学) |
| 芝田たける | 大阪教育大・大学院 (在学) | 副島裕一 | 京都大・大学院理 (在学) |
| 渡邊皓子 | 京都大・大学院理 (在学) | 並河大地 | 鹿児島大・大学院理 (在学) |
| 岩上わかかな | 東北大・大学院 (在学) | 永山 匠 | 鹿児島大・大学院理 (在学) |
| 飯田佑輔 | 東京大・大学院理 (在学) | 井上芳幸 | 京都大・大学院理 (在学) |
| 鈴木隆之 | 山形大・大学院理 (在学) | 小野宜昭 | 東京大・大学院 (在学) |
| Nemes Norbert | 大阪大・大学院理 (在学) | 渡邊祥正 | 北海道大・大学院理 (在学) |
| 澤田真理 | 京都大・大学院理 (在学) | 栗本裕巖 | 大阪府立大・大学院 (在学) |
| 奥住 聡 | 京都大・大学院 (在学) | 瀬田裕美 | 埼玉大・大学院理 (在学) |
| 奥山 翔 | 東京大・大学院 (在学) | 森本奈々 | 東北大・大学院理 (在学) |
| 上田 剛 | 東京大・大学院 (在学) | 中村聡史 | 東京理科大・大学院 (在学)/理化学研究所 |
| 上原悠一 | 東京大・大学院 (在学) | | |

準会員入会 (23名)

| | | | |
|-------|-----------------|-------|---------------|
| 佐藤 憲 | 竜ヶ崎市在住 | 梅木勇大 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 佐藤拓也 | 東京理科大・理 (在学) | 吉良知恵 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 小宮山 円 | 東京理科大 (在学) | 笹田真人 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 渡辺泳樹 | 東京理科大 (在学) | 田中祐行 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 森永修司 | 東京大・大学院/国立天文台 | 吉田広明 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 額谷宙彦 | 理化学研究所 | 松井理紗子 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 沼田忠晶 | 八王子市立元八王子小学校 | 西野 翔 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 南野真容子 | 大阪市立大・大学院理 (在学) | 宮本久嗣 | 広島大・大学院理 (在学) |
| 大井 渚 | 総研大 (在学) | 成瀬雅人 | 東京大・大学院理 (在学) |
| 藤野賢一郎 | 日野市在住 | 荒尾考洋 | 鹿児島大・大学院 (在学) |
| 後藤俊樹 | 名城大学付属高校 | 松井 真 | 鹿児島大・大学院 (在学) |
| 上原岳士 | 広島大・大学院理 (在学) | | |

移籍会員〔準→正〕(3名)

山室智康

内山秀樹 京都大・大学院理(在学)

石川遼子 東京大・大学院(在学)/国立天文台

移籍会員〔正→準〕(3名)

錦織弘充, 輪嶋英明, 鮫島昌弘

正会員退会(6名)

中富信夫, 大貫宏祐, 馬場大介, 矢本史治, Budi Dermawan, 森 淳

準会員退会(1名)

橋本静代

賛助会員退会(1社)

みさと天文台

団体会員退会(1団体)

千葉敬愛高校天文同好会

訂 正

天文月報 2007 年 9 月 (第 100 巻 9 号) EUREKA に
誤りがありました。訂正してお詫び致します。

481 頁左欄上より 7 行目

誤) RGB という天体现象

正) GRB という天体现象

天文月報オンラインの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード **vol198** の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一(編集長), 浅井 歩, 今西昌俊, 衣笠健三, 齋藤正雄, 寺田幸功, 戸谷友則, 三好 真, 矢野太平, 吉田直紀
平成 19 年 9 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価 700 円(本体 667 円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2007 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)